

# ニュージーランドの都市空間における創造的 野外レクリエーションの実態とその事例

○ 杉尾 邦江 (株式会社ブラック研究所)

New Zealand, 創造的野外レクリエーション, Parks & Recreation, New Zealand のレクリエーション行政組織, Environmental Trail, Home Gardening

## 1. はじめに

我が国のレクリエーション政策には、現在2つの大きな問題がある。第一は、行政の不統一化による政策の競合化、それによるレクリエーション行政の非効率、第二には、年間約4000億円を投入するレクリエーション関連予算の殆どが施設整備費であり、レクリエーションに関する基礎的研究と、利用のためのプログラム整備の不足、この2点が指摘される。

一方、ますます都市部への人口の集中化による、都市生活のやすらぎの低下や自然環境の消失、又、高度安定化と情報化社会の進捗の中で、人々は精神の不安定化を感じ、「物的豊かさ」から「心の豊かさ」を強く望む傾向にあることは、現在一般的に承知のことである。

余暇活動にあっても、快適環境の創造や、生活に潤いと感性を高める知的、創造的レクリエーションの要望が強まっている。このことは、最近各地の都市アメニティを高める環境創造計画の中に、自然のみならず、文化や歴史等にもふれあうレクリエーション施設の整備とそれらのソフトづくりの要望が高い事からもうかがえる。

しかし、我が国には、現在、すぐれたプログラムに乏しく、これらのプログラムを早急に開発、用意することは、緊急的課題である。そのためには、先進的諸国に事例を学ぶことが考えられる。そこで、一例として、先進的諸国の中でも、特に野外レクリエーションが活発で、ユニークな活動を行っているニュージーランドの実態について、特に都市の身近な環境での、幾つかの事例と理想的と考えられるレクリエーション行政(地方行政)のシステムについて紹介するものである。

## 2. 歴史的背景

ニュージーランドは開国の歴史も浅く、人口も少ない。(開国開拓が始まって百数十年、人口は約330万人)これまでその国土はよく保全されてきたと言える。優れた自然景観地域は、National Parksとして、アメリカに次いで世界でも早くに指定され、積極的な景観資源の保全と更にこれらを活用した野外レクリエーションやスポーツを発展させてきた。公園やレクリエーション空間としての都市の緑地は、開拓時代の初期段階で既に、母国イギリスの都市計画手法を導入して、保留に努めている。すなわち、Aucklandにおいては、domain・公園という形で、大面積の緑地が保留され、南島のChristchurch市では、公園・ガーデン・都市広場として、更にTown beltの構想のもとに、巾の広い並木のある大通りが設置された。Wellington市では、

都市部と住宅地との境界地域に両海岸を結ぶTown beltとして緑地を保留した。また、Dunedin市においては、市内及び市外の街区ごとに、それぞれTown beltとして緑地がベルト状に保留され、今日これらが公園・レクリエーションスペースとして活用されている。

一方、1941年、David Tannockはニュージーランドの主要な産業を支える広大な放牧地のグリーンは、広く一般国民のスポーツやレクリエーションに活用されるべきであると述べている。更に、最も価値あるレクリエーションは、Gardening(庭づくり)であり、庭づくりによって、人間は最も純度の高い喜びを得ることができ、精神をリフレッシュさせるものであると述べており、ニュージーランドにおける、創造的レクリエーション活動として、Home Gardeningを最も高く評価している。

このように、ニュージーランドの公園・レクリエーションは、現在では広く原始的環境地域、広大な牧草地・海岸地域は勿論、都市公園、さらに私的空間を含めて、積極的にレクリエーション活動を展開している。

## 3. ニュージーランドにおけるレクリエーション地方行政システムについて

ニュージーランドのレクリエーション空間、資源の確保は、先に述べた様に開拓、都市の建設と同時に、都市計画によって保留された。これによって、今日多大なレクリエーション活動を可能にしている。また、ニュージーランドのレクリエーションが効果的に行われている事は、優れたレクリエーション行政システム及び「ニュージーランド公園・レクリエーション行政協会(New Zealand Institute of Parks and Recreation Administration inc.: NZIPRA)による支援に起因していると考えられる。

### [3-1] レクリエーション行政システム

ニュージーランドのレクリエーション行政は、地方行政が、その主体を成している。地方行政は、CITY Councilといった独特な行政単位を形成しており、レクリエーション行政システムは、図( )のとおりである。

市長の下に、公園レクリエーション市議会が設置され、その下に公園レクリエーション局長が配され、ここで公園及びレクリエーションの総ての業務が総括されている。従って、一つの局の中で、公園・レクリエーションのハード・ソフト、更にコミュニティ・学校各種団体のレクリエーション活動まで所管されている。

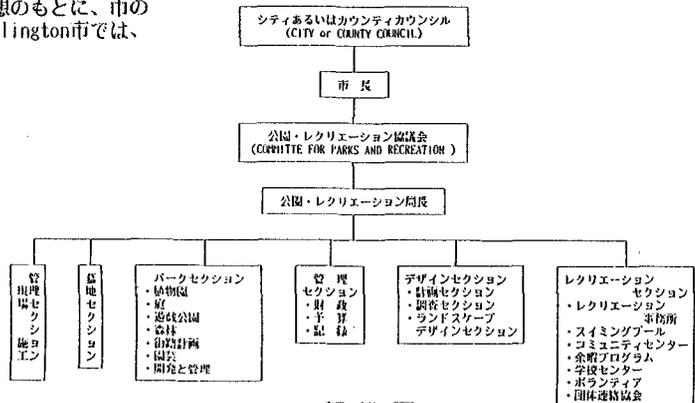


図1 公園・レクリエーション行政システム

### [3-2] レクリエーション行政を支援する組織

更に、レクリエーション行政を支援するため、公園・レクリエーションに係わる地方行政官、政府関係者、ナショナルパーク、森林・環境保全の専門家、大学、研究機関の研究者、民間人から成る NEW ZEALAND INSTITUTE OF PARKS AND RECREATION ADMINISTRATION INC.(NZIPRA) が組織され、ニュージーランドのレクリエーション及び公園、環境に関する研究、教育（公園・レクリエーションに係わる行政官や関係者に対する教育）及び一般利用者の教育・普及活動等が行われ、一層の成果を上げている。

### 4. ニュージーランドの都市空間における創造的野外レクリエーションの事例

#### [4-1] オークランド(Auckland City) の都市公園内におけるソフトプログラムによる Environmental trail

オークランドシティカウンシル(Auckland City Council) は、オークランド市内の5つの都市公園に環境歩道を設置している。これらは、いずれも既存の公園内に、環境教育のための観察と思索のためのポイントを設定し、質問に答える形式を用いている。それぞれ公園の歴史的背景・自然環境の特性を生かし、公園の性格に基づいたコースと設問が設定されている。各公園の管理事務所でこれらの環境歩道のリーフレットが用意されているが、このリーフレットは、自由に利用者が求めることができる。リーフレットはA5判の小冊子で、まず公園のあらまし、歴史等が詳しく解説されている。更に、公園の各部分の解説と全体の平面図に Environmental trailのコースが書かれ、Work sheet(質問紙)がついていて、これに設問が記され、この Work sheetによる設問に答えながら、公園を利用する。設問数はおよそ 8~10、公園内の解説ポイントは、20数箇所におよんでいる。どの公園のコースもニュージーランドの開拓の歴史、先住民族マオリ族の歴史と文化、開拓時代のニュージーランド人の生活、環境要素としての地形・地質、ニュージーランド原産の植物、ヨーロッパから移植された植物、園芸等を一体的に学ばせようとする他、今後の公

園整備に関する意見を聞く等、工夫をこらしたプログラムとしている。5つの公園のうち、3公園の Work sheet を以下に紹介する。

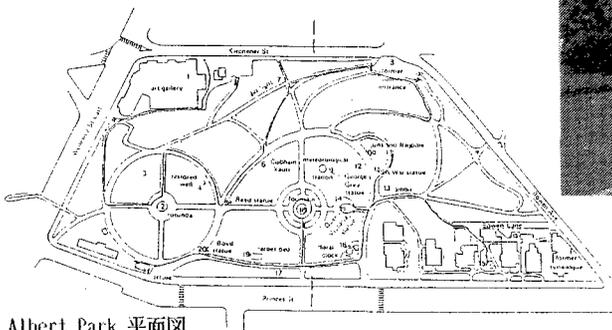
#### (1) Albert Park Environmental Trail

- ① 公園のある場所を、先住民も移民者も同じ目的で使用した。その理由は？
- ② 1880年代の公園の、ある天気の良い日曜日の午後、この公園を人々はどうのように利用し、楽しんでいたか、その様子を想像して、詩に書か、絵に描いてみよう。
- ③ ニュージーランド原産の植物名を上げよ。
- ④ 公園に設置されている、ビクトリア女王等の像についてどう思うか、撤去したり、別の場所に移動させた方が良いと思うかどうか。
- ⑤ 新しく公園を拡張するためには、古い昔の家を撤去しなくてはならない。多くの人達はその保存を望んでいるが、あなたは思うか？ その理由は？
- ⑥ 公園管理事務所のコテージを簡単にスケッチしてみよう。あなたは、この小屋が好きですか？ それとも、みにくいと思いませんか？

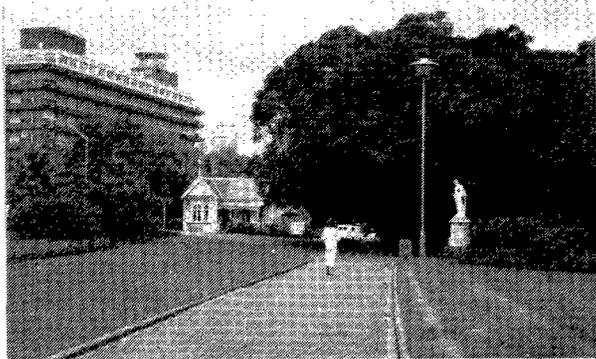
以上のようにこの Albert Parkでは、公園をリフレッシュさせることに対する、市民の声を聞く等、公園管理に向けての努力も同時に図られている。

#### (2) Western Springs Environmental Trail

Western Springs は、湿地・池を主体とした自然風景式公園で、水鳥のサンクチュアリーともなっている。



Albert Park 平面図



⑥の地点



Albert Park ④の地点



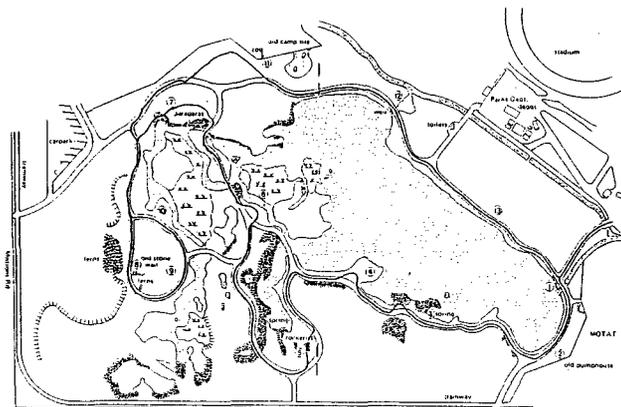
Western Springs

ここでの Work sheet は、①池の水の問題、②水性植物に関する生態的問題、植物の遷移、③水鳥や植物の観察を、スケッチをする事によって行う事、④水鳥の繁殖に関する観察、⑤ニュージーランド原産植物の環境への適応性、⑥シダ植物の成長過程をスケッチすること、⑦ニュージーランド原産の植物を植栽することの必要性和その理由。これらの設問のように、池をめぐる湿地の生態系を学習させることを意図している。

(3) Auckland Domain Children's Nature Trail  
ドメインは、オークランド市内の最も大きな公園で、中にはオークランド最大の戦争記念博物館、観賞用温室ガーデン、クリケットフィールド、庭園、サンクチュアリー等がある総合公園である。

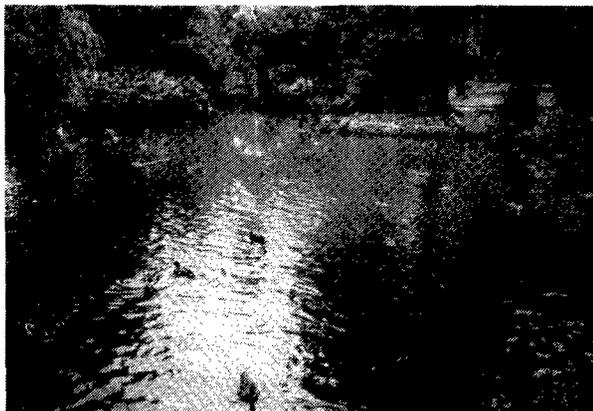
ここに設置されている子供の為のネイチャートレイルは、観察ポイントとルートが設定されているだけで、特別に園路等が設置されているわけではない。パンフレットに観察ポイントとルートの人った全体マップ、それにポイントの解説がなされており、これによって、セルフガイドで利用するものである。

ここでのポイントは、①まず「地形について」で、ドメインの地形的成因を学習する。それは、ドメインの中心の最も高い場所にある博物館の位置から、ドメイン全体の地形を概観し、ドメインは火山に

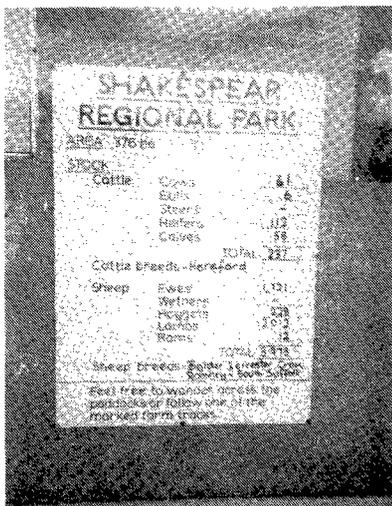


Western Springs 平面図

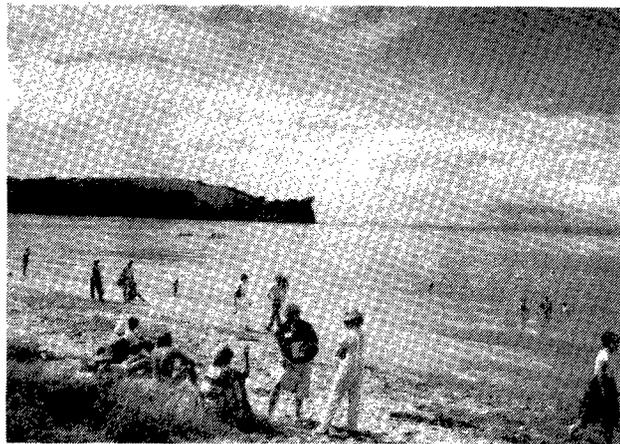
て形成され、その痕跡をとどめている「クレーター (Cretator)」等を観察するようになっている。②ドメインの歴史として、先住民マオリ族との戦争後、新しいヨーロッパからの移住者がここを公園とする事を定め、更に、狩猟のためにここに水鳥を導入した等の、移民者達の生活と歴史を学習する様になっている。③更に、ダックポンド (Duck ponds) には、マラードダック (Mallard duck) やマスを初めてヨーロッパから導入したこと、又、池の植生、生態等をイラストでわかりやすく説明している。④フォーモルガーデン (Formal Gardens) 英国式庭園、英国の伝統を受け継いだ花壇のある庭園については、周辺の自然のままの環境との違いを学ばせ、植物や動物について、注意深く観察させる。又、これらの庭園が、昔に比べ、大きく変化した過程等を、昔の写真をパンフレットに載せてこれも見せながら、認識させようとしている。⑤自然環境そのものを、保護・保全されている谷部や凹地、谷部では、自然のままの植生や野生動物の生息環境を学ばせるようにしている。⑥ウインターガーデン、ここでは、伝統的な、ニュージーランドの園芸植物を観賞させ、園芸への関心を高めることを工夫している。



Auckland Domain Children's Nature Trail ③のポイント



Shakespeare Regional Park の指示板



Shakespeare Regional Park の海岸風景

以上、オークランド市の公園の中に設置されている環境教育トレイルについて若干の事例を紹介したが、身近な公園にテーマを見つけ、少しの工夫で公園利用の質を高め、レクリエーションを通して、知的創造性を養い、ニュージーランドの文化と歴史と環境について、常に理解と親しみの機会を用意している。

#### 〔4-2〕牧場の公園化とその利用

ニュージーランドは、都市近郊に、更に野外に親しむための Regional Parks Net Work を持っている。オークランド近郊には、およそ11箇所の Regional Parks を設置し、Christchurch Garden Contest 工場部門優勝の庭 test 住宅部門市民に親しまれている。それぞれ地域の環境の特性を生かした地域自然公園であり、利用の主体は、ハイキング、トラッピング、ピクニック、水泳、ボート、キャンピング、サーフィング等であるが、中には特別に、ファームウォーク (Farm Walks) というのがあり、牧草地を公園化している。

その例として、シェイクスピア・リージョナルパーク (Shakespeare Regional Park) について紹介する。この公園は、面積約 376ha、オークランドより56kmの位置にある。最初の農場公園として指定され、海水浴、ピクニックが楽しめ、更にファームトレイルが公園内に整備され、農場風景を楽しみ、農場経営を学ぶことができる。また、海岸に面しているため、ニュージーランドの海岸の自然植生を学習する事もできる。ここの公園の特徴は、9500頭の羊と、1600頭の牛を飼育しているが、これらの牛は売却されるまでストックされているものである。又、ここでは、羊および牛の品種の保存にも努め、全て放し飼いされている。この農場公園の目的は、

- ①家畜の種の保存
- ②牧場経営
- ③牧場経営への知識、教育、啓蒙、普及
- ④海岸の自然植生の保存
- ⑤レクリエーション

以上のような目的は、1941年 David Tannock がニュージーランドの広大な牧草地を多くの人達の多様なレクリエーションに利用されなければならないと提唱した事に始まると思われる。このように産業教育と農場経営を行いながら、

レクリエーションと調和させている。又、これらのリージョナルパーク (Regional Park) には、レンジャーステーションが設置されており、数々の利用者指導として、ガイドツアー等各種のサービスが行われている。身近な環境に創造的レクリエーション資源をみつけ、更に開拓時代からの歴史、先住民の文化の保存、ニュージーランドの原生な自然に愛情を注ぎ、それらについて親しみ、学び、守り育てる事が常に公園、レクリエーションの重要なテーマとしている事は興味深い。

#### 〔4-3〕ニュージーランドにおける、最も創造的レクリエーション活動としてのホームガーデニングの実態 (南島クライストチャーチ市の事例)

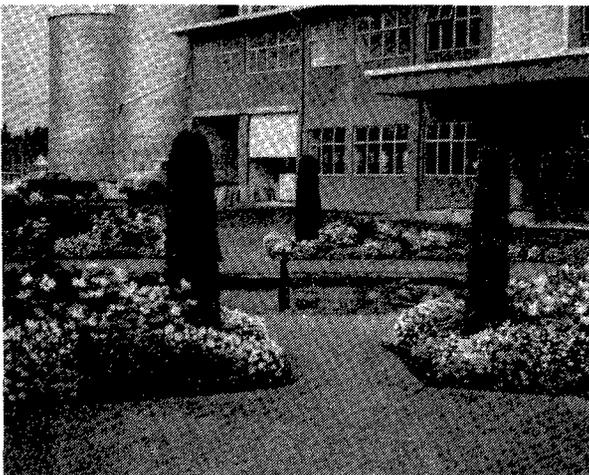
(1)ホームガーデニングのレクリエーションとしての意義  
J・ブノワメシャン (Jacques Benoist-Me'chin) は、彼の著書「人間の庭」で、「庭の創造は余暇によって、もたらされる表現の最高のものであり、人類がその地上への出現以来、世界中に木や花に飾られた空間を造り続けて来

た謎を解くものであり、ある種の文明において、偉大なる庭園芸術は、抽象的ではなく、自然それ自体の要素を用いて、至福の概念を表さんとする望みに結びついている。」と述べている。又、「これらを生み出す余暇とは、無為や怠惰ではなく、それはすばぬけて創造的な状態である。」と説いている。又、先にも述べたように、1941年に David Tannock の言明も同様、ガーデニングこそ人間の最も高い喜びを得る事ができるレクリエーションであるとしている様に、ニュージーランドにおけるホームガーデニングは、極めて高い水準に到達し、個人のレクリエーションから住環境の美観を形成し、更に、都市のアメニティを高めるに至っている。アメリカ及びニュージーランドのホームガーデンの歴史は、開拓時代に始まる。留守を預かる家庭の主婦が、菜園と薬草等を育てた事に始まる。

従って、古い時代に造られた、すぐれたホームガーデンは、婦人の作品によるものが多い。

しかし、現在では、ニュージーランドのホームガーデンは多様な階層に愛好され、とりわけ、定年後のシルバーエイジの人達の主要なレクリエーション活動となっている。南島クライストチャーチ市では、これらのホームガーデニングの活動を一層高め、活発なものにしている方策として極めてユニークなガーデンコンテストを挙げる事ができる。

(2)クライストチャーチ市のガーデンコンテストの実態  
ガーデンコンテストは、クライストチャーチ美化協会が主催・実施している。協会は、1897年に創立して以来、クライストチャーチが誇りあるガーデンシティとなる事に努力して来たボランティアの団体である。各種の美化活動を精力的に行っているが、特にこのガーデンコンテストは、極めて高い成果を得ている。ガーデンコンテストは、一般



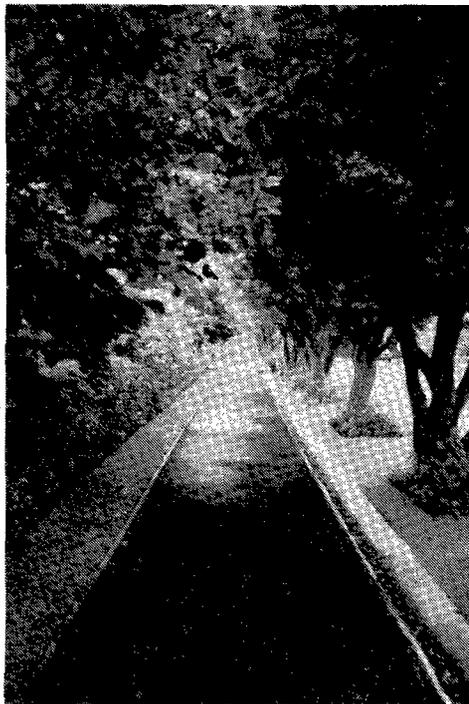
Christchurch Garden Contest 工場部門優勝の庭



Christchurch Garden Contest 住宅部門

の家庭の庭以外に、事務所、工場、病院、アパート、商業建築、ホテル等の庭他に、道路が含まれる。春期及び夏期の2回行われ、綿密なコンテストの規定が定められている。審査員は、約20名程度、協会員であり、全てボランティアである。町中の応募したガーデンを見てまわり、審査し、最終的には、市長を交えた審査会によって優勝者が決定される。これには市の公園、レクリエーション局がサポートしているが、あくまでも支援の形であり、全ての主体はこの市民のボランティア団体の美化協会である。審査のポイント及びコンテストの理念は町的美観形成に寄与する事にある。従って、道路から見て美しく、魅力的である事が最大のポイントとされているので、審査は常に道路から観察する事によって行われる。

- 次に、コンテストの規則の一部を記す。コンテストは、次のおよそ20部門で行われる。その内容は、
- ① ANDREWS CUP : 春のガーデンが対象。道路に面していても良い。
  - ② H.M.TAILOR CUP (NOVICE) : 初心者が対象。道路に面していなければならない。今迄、コンテストに入賞した事のない人が対象。次の年には好きな部門に応募できる。
  - ③ H.TILLMAN CUP : 道路に面して住宅の建築後3年以内の庭。次の年からは、好きなクラスに応募できる。
  - ④ DACRE CUP : 集合住宅の庭。
  - ⑤ HACK CUP : 公共交通機関によって管理されている道路に面している庭。
  - ⑥ DOBSON CUP : 周囲に対して最も効果的であった庭。
  - ⑦ HERBERT CUP : 60フィート以内の道路に面した庭。
  - ⑧ SLSDEN CUP : 60フィート以上の道路に面した庭。
  - ⑨ McMA STER CUP : 規定外。道路に面していても可。
  - ⑩ WALSH TROPHY : 30才以下の若い人の家の庭。この入賞者は、このクラスに再度の応募はできない。



Christchurch Garden Contest 道路部門

- ⑪ HOWMAN TROPHY : アパート部門。
- ⑫ WATLING CUP : 研究所、工場、商業建築の庭。
- ⑬ DALLEY CHALLENGE TROPHY : 企業、事務所、娯楽施設部門。
- ⑭ JEFFERIES TROPHY : ホテル、モーテル、宿泊施設部門。
- ⑮ GOWER CHALLENGE CUP : クラスに関係なく最も優れた庭に与えられる。
- ⑯ RUSKE CUP : 最高作品、部門の中で最も高い得点を得た庭の中から、特別に全審査員によって推薦される。
- ⑰ RICCARTON WORKINGMEN'S CLUB CUP : リカートンワーキングクラブの周辺にある庭で、このクラブから見られる最も魅力的な庭。
- ⑱ CHRISTCHURCH BEAUTIFYING ASSOCIATION TROPHY : 過去の人選者で、入賞時の成績を維持している庭に与えられる。

以上の部門ごとに、以下の項目について、それぞれの得点配分が異なる。得点の配分は、下記の通りであり、更に、かん木類には、ニュージーラド原産種の植栽が必要とされている。審査は、春期は 9月~11月、夏期は 2月の第一日曜日とされており、審査の結果、与えられるトロフィー及びカップには、「貴方の庭が我がクライストチャーチ市の美化に多大の貢献をした事を賞します。」と記されている。

デザインとハーモニー	30 点
花(一年草・多年草)	20 点
樹木及びかん木	30 点
園芸技術と管理	10 点
芝生及び地被	10 点
	100 点

### (3) ガーデンコンテストの意義と効果

このガーデンコンテストには、以下のような3つの効果を認める事ができる。

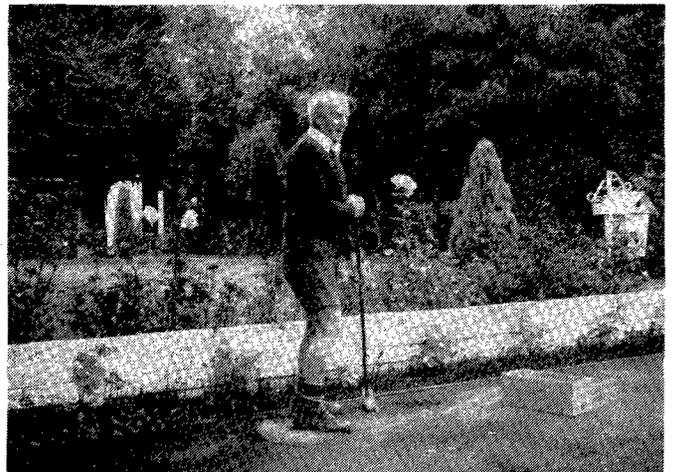
①市民参加・ボランティア活動による市民の強い連係と

町への愛着心の向上と強化

②町の景観美化への寄与

③余暇活動としてのレクリエーション

このうち、②に対する効果は極めて大きく、市民による住環境のガーデン化は今では観光ルートになる程の美しい町並とガーデンストリートを形成し、見学者が絶えない。又①については、特にストリート部門のコンテストは、道路に沿った一帯の家々全てが対象となるので、市民の協調性が高まる事となる。又、植栽木には、必ずネイティブな樹種を混植する事が定められ、ニュージーラド原産の植物の保存・保護の精神も育まれる事となる。③については、特に高齢者の良き余暇としての活動を活発化している。



庭の手入れをする老人

## 5. 考察及びまとめ

	ニュージーランド	日本
国土総面積	264,000 sqkms	372,000 sqkms
人口	3.3 million	120 million
人口密度	12/sqkm	323/sqkm
国立公園面積	21,500sqkm	20,000sqkm
総公園面積 (保全地域を含む)	65,700sqkm	52,000sqkm
公園利用者	3~5 million	600 million

(1)我が国とニュージーランドとでは、国土面積や公園面積は同じに近い。自然環境も非常に似ている。しかし、人口は、日本はニュージーランドの約40倍、公園利用者は約200倍と極めて高い。従って、ニュージーランドでは、日本に比べ、良質のレクリエーション資源と、良好なレクリエーションサービスを国民が享受出来る事は、当然と思われるが、このニュージーランドの極めて高い水準のレクリエーション活動を行っている背景とその要因としては、レクリエーション行政の理想的なシステムにある。レクリエーション行政は、公園・レクリエーション局が、全ての業務を所管する事によって、効率の良い行政を実行する事が可能となる。また、レクリエーション及び公園行政に携わる行政担当者、教育関係者、民間人より成るニュージーランド・パークアンドレクリエーション行政学会 (New Zealand Institute of park and recreation Administration Inc.: NZIPRA) を組織し、様々な研究・教育活動を行なっている。更に、市民レベルでは、ボランティアとしての各種団体の自主的活動も活発で、同時に行政が、力強く支援している。

(2)次に開拓時代の初期段階から、レクリエーションのためのパークシステムを確立し、土地・緑地の保留に努めた事、良き指導者によるレクリエーションのコンセプトが明確化していた事。

(3)ニュージーランドの原生な自然の保全に努める、愛護心を育成した事。

(4)ニュージーランドの歴史、先住民の文化に対する関心と教育に努めている事、則ち、創造的レクリエーションとしての身近な公園での環境教育プログラムに、その思想を反映させている事。

(5)母国英国の園芸技術を更に高め、一般市民のレクリエーションとして、ホームガーデニングを定着・普及させ、併せて、老人の良き余暇活動としても効果を上げ、更に都市景観の美観形成に寄与している事。

### 参考文献

- (1) A History of PARKS & RECREATION
- (2) Guidelines for Park and Recreation Administration in New Zealand
- (3) Albert Park Environmental Trail
- (4) Western Springs Environmental Trail
- (5) Auckland Domain Children's Nature Trail